

平成 17 年 10 月 27 日

SAAJ NEWS RELEASE

証券アナリストは会計基準・ディスクロージャーの改善を高く評価 今後も更なる改善を要望 会計基準の国際的統一を条件付で支持

(社)日本証券アナリスト協会(会長：金子昌資 日興コーディアルグループ取締役兼執行役会長)は、所属の検定会員を対象に企業会計基準についての意識調査を行いました。財務データの主要なユーザーである証券アナリストを対象にした会計基準等についての体系的な調査はわが国では初めての試みです。

調査時期は 2005 年 9 月。日本証券アナリスト協会の検定会員でメールアドレス登録者 11,797 名を対象にアンケート方式による調査を行いました。回答者 974 名、回収率 8.3%です。

[調査結果のポイント]

I 会計基準について

- ✓わが国の会計基準およびディスクロージャーは 5 年前に比べて大幅に改善と高く評価しています。
- ✓会計基準の国際的な統一（コンバージェンス）を図っていこうとの動きについては、条件付を含めれば、約 95%が支持しています。しかし、無条件での賛成は約 25%にとどまり、70%近くが何らかの留保をつけるか、一定の差異の存在を認容するとしています。
- ✓現在損益計算書の最終行に表示されている当期純利益を包括利益*に代えるべきかどうか、国際的な議論の対象になっています。この点については、約 87%が包括利益を何らかの形で財務諸表に表示することを望んでいます。同時に当期純利益も表示することを求めています。包括利益を不要とする意見は約 4%にとどまる一方、純利益を廃止して包括利益を最終行に記載すべきとの意見も 5%にとどまっています。

*当期における資本取引によらない企業の持分（純資産）の変動。日本の現行会計基準の下では、当期純利益に「その他有価証券評価差額金」、「為替換算調整勘定」の変動額を加減したものを。

- ✓公正価値（時価）に重点を置いた評価、リース会計におけるオンバランス化（貸借対照表への資産計上）、企業結合における資産・負債の評価方法、棚卸資産の評価方法といった論点については、概ね国際基準に沿った考え方を支持する意見が多くなっていますが、これらに関連した幾つかの論点については、わが国の基準の考え方を支持する意見も有力です。

II 財務データの利用について

- ✓個別と連結では圧倒的に連結を重視しています。
- ✓財務諸表では PL、BS、キャッシュフロー計算書の順で重視されています。
- ✓財務数値では営業利益、財務指標では売上高営業利益率が最も重視されています。

添付資料

- 資料 1 企業会計基準についてのアナリスト調査(要約版)
- 資料 2 会計基準アンケート(実際のアンケートフォームに結果数値を記載)
- 資料 3 担当職務による意見の相違(ユーザーと作成者間の意見相違等を分析)

本件に関するお問い合わせは下記まで
(社)日本証券アナリスト協会
電話：03-3666-1572
担当：教育第二企画部長 金子誠一